

Lab News

テーマ “検査室を取り巻く環境変化”

最近の医療情勢は、医療制度改革、少子高齢化、疾病構造の変化や病院経営形態の見直しと患者ニーズの多様化などますます厳しさを増し、臨床検査室を取り巻く環境も大きく変化しています。

検査室においては、度重なる医療法の改正や包括医療制度（DPC）の導入は、従来では当たり前とされていた検査の大量処理、多項目処理を否定し、検査室の人件費を含むトータルコストの削減が求められています。また、医療の質の変化として、EBM（Evidence Based Medicine）は、従来の経験やカンに頼る医療から医療情報や医療・治療データに基づく医療へ変化してきました。特に数値データを扱う検体検査は、EBMでもベースとなる基本データであります。そしてこの基本データである検査データの品質管理（狭義の精度管理ではなく、採血から前処理、測定、後処理、報告までの一連の検査工程の品質管理）や報告される検査結果の品質保証が重要視されるようになりました。さらに、これらは時間管理（TAT管理）に基づいた迅速な報告・管理体制の構築が必要とされます。

病院内での検査室の在り方としては、入院期間短縮化に繋がる細菌・感染管理システムの充実と迅速な情報提供の確立やNST（栄養サポートチーム）対象患者への検査データの提示・解析などカンファレンスへの積極的な参画、活動の継続は必須であります。さらに、臨床サイドからの「ニーズ」にも対応できる検査室の体制づくりも大切であります。

検査室の使命が、単に依頼された検査結果を返すことから、付加価値をつけた検査情報へ、さらに、病院職員として臨床側や病院経営に対して検査室がどう貢献できるかを問われる時代と言っても過言ではありません。

医療を取り巻く環境の変化		検査室を取り巻く環境の変化	
医療制度改革	疾病構造の変化	病院組織改革	包括医療の進展(DPC)
少子高齢化	医療訴訟の増加	欠員補充の見送り	精度保証(ISO15189)
患者の権利意識の高まり	価値観の多様化	チーム医療	院内感染対策の充実
個人情報保護法	先端技術の進歩	ベッドサイド検査	手術室内検査